

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	訪問診療クリニックにおける看護師の役割②～アンケートを通じて看護師のモチベーションを考えてみた～
演者名	村田理恵、佐藤久美、川井田佳美、岡田 豊、中村幸伸
所属	つばさクリニック

【はじめに】当院は訪問診療を専門に行うクリニックで、診療に際して看護師は医師とともに自宅へ訪問している。看護師の業務としては、診療の同行を主体に、診療後方支援や外部医療機関との連絡や調整、物品管理などを行っている。今回我々は訪問診療における看護師業務について当院の看護師がどのような意識(必要性ややりがいなど)を持って取り組んでいるか、アンケートを通じて調査したので報告する。

【当院の紹介】当院は訪問診療に特化したクリニックで、医師 11 名(常勤 6、非常勤 5 名)、看護師 14 名、MSW2 名、事務 6 名、ドライバー 8 名の体制の下に約 400 名の患者に対して診療を行っている。

【方法】当院に在籍する看護師全員(14 名)に対してアンケート調査を行った(無記名方式)。【結果】「訪問診療の現場に看護師は必要か?」に対して、全員「必要である」と答えた。「やりがいのある業務内容は?」に対しては、「診療の同行」が最も多く、以下「緊急電話の対応」、「グリーフケア」といった患者や家族と直接触れ合う内容が挙げられた。訪問診療に看護師が同行する意義に関しては、「診療・処置がスムーズに行える」「現場がなごむ」「複数の目で見ることにより幅が広がる」といった意見が多かった。やりにくさを感じる業務としては物品管理や外部との調整、グリーフケアが挙げられた。

【考察】今まで看護師として経験してきた内容のもの(診療の介助や処置)は比較的容易に受け入れられていると思われた。看護師が診療へ同行することに関しては全員有用であると考えていた。これに対して外部連携機関との連携調整やグリーフケアについては必要性を感じているものの、コミュニケーションの難しさを感じる意見が挙げられ、さらなる経験が必要と思われた。

【まとめ】今後、在宅で訪問診療に携わる看護師として他機関との連携や、必要な知識・経験を養うことでよりよい医療を提供していきたいと考えている。